

※本ガイドを財布等に入れ、常に携帯するようにしてください。  
※日頃から本ガイドを読み、平常時の防災意識を高めるよう心掛けてください。



もしもの時にあなたの身を守る

# 大地震 対応ガイド

教職員用

国立大学法人  
OITA UNIVERSITY  
大分大学

## 3 安否報告の方法

本学では「安否情報システム ANPIC」を導入しています。大地震が発生し、このシステムを活用した安否確認メールが届いた際は、連絡可能な状況になり次第、メールの指示に従って安否情報を報告してください。

大学のメールアドレス (@oita-u.ac.jp) 及び各自で設定した携帯電話のメールアドレスに大学から安否確認のメールが届く。

メールの指示に従い、安否報告画面にアクセスし、安否状況を報告する。  
(報告内容:本人の安否、現在地、コメント(任意))



スマートフォンユーザーの方は、ANPICアプリ(無料)をインストールすれば、安否確認の通知先を、アプリやLINEに設定することもできます。

安否確認メールが届かない場合は

somu@oita-u.ac.jp 又は TEL:097-554-7406  
(いずれも総務部総務課)へ、本人の安否、現在地、コメント(任意)を報告してください。

## 大地震対応ガイド

- 1 本人情報
- 2 日頃の注意事項
- 3 安否報告の方法
- 4 災害用伝言ダイヤル・伝言板
- 5 緊急地震速報を受信したら
- 6 大規模地震が発生したら
- 7 揺れが収まった後の対応
- 8 津波からの回避(王子キャンパス)
- 9 帰宅の判断
- 10 大規模地震発生時の教員の初動について
- 11 大規模地震発生時の教員以外の初動について

勤務時間内における  
行動の流れ

## 1 本人情報

氏名	
所属	
住所	
電話番号(自宅)	
生年月日	
持病・アレルギー	
常用薬	
自宅以外の連絡先	
氏名・続柄	
住所	
電話番号	

## 2 日頃の注意事項

大地震の発生は防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。  
どのような備えが必要か日頃から考えておきましょう。

- ▶ 勤務場所、通勤途中及び自宅周辺等の避難場所の確認
- ▶ 部屋の棚等の転倒防止対策実施及び緊急避難用品の準備
- ▶ 緊急時メモの作成 → 「①本人情報」へ記入のこと
- ▶ 家族との連絡方法及び待合場所の確認
- ▶ 災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板の確認  
→ 「④災害用伝言ダイヤル・伝言板」を参照のこと
- ▶ 帰宅ルート及び所要時間の確認  
→ 災害時徒歩速度:約2.5Km/h

本ガイドは次のURL等からもダウンロードできます。

**パソコン** [https://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/safetyguide\\_staff.pdf](https://www.oita-u.ac.jp/01oshirase/safetyguide_staff.pdf)

**QRコード** スマートフォン・携帯電話(ガラケー)  
右のQRコードからアクセスしてください。



※災害発生時にはインターネットに接続できない場合がありますので、事前に本ガイドをお手持ちのスマートフォンや携帯電話にダウンロードしておいてください。

## 4 災害用伝言ダイヤル・伝言板

電話 で連絡・確認  
NTT災害用伝言ダイヤル

伝言の録音	伝言の再生
1 171	へ電話をかける ガイダンスが流れる
2 1	2
3 市外局番+固定電話の番号	※NTTが被災地と定めたエリア内

※被災地内の固定電話のみに提供されるサービスです。  
※被災地内の固定電話に対する録音・再生は携帯電話からでもご利用になれます。  
※被災地外から被災地内の固定電話への録音は規制される場合があります(再生は利用可能)。

体験利用  
について

災害発生時に備えて利用方法を事前に覚えらるよう、体験利用提供日が設定されています。

体験利用提供日 毎月1日、15日(0:00~24:00)・正月三日(1月1日0:00~1月3日24:00)  
防災週間(8月30日9:00~9月5日17:00)・防災とボランティア週間(1月15日9:00~1月21日17:00)

インターネット で連絡・確認  
NTT災害用伝言板

1		<a href="https://www.web171.jp/">https://www.web171.jp/</a> (web171)へアクセス
2	登録または確認したい電話番号を入力 ※数字のみ「-」なして入力	
	伝言を登録する	伝言を確認する
3	登録の場合は「ひらがな氏名」「安否」「伝言」を入力して「伝言を登録する」をクリック	

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。

## 5 緊急地震速報を受信したら

- 【室内の場合】
- 窓、棚、ガラス等、割れたり倒れたりしそうなものから離れ、ドアを開け出入口を確保する。
  - 火を使用していた場合は、直ちに消火する。

- 【屋外の場合】
- なるべく落下物や倒れそうなものが無い、安全な場所に移動する。

## 6 大規模地震が発生したら

- 【室内の場合】
- その場で安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。
    - ・まず姿勢を低くして地面に近づく。(強い揺れで自分が倒れる前に!)
    - ・固定された机やテーブルの下に入り頭を守る。頭を守るものがない場合は、腕や荷物を使って頭を守る。
    - ・揺れが収まるまで動かない。揺れが収まり屋外に出ても安全上問題がなくなるまで室内に留まる。
- ※日本の建物の大半は、留まっておいほうが安全。

勤務時間内における行動の流れ

## →6.大規模地震が発生したら大学に安否報告

## 【屋外の場合】

- なるべく安全な場所で、安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。
- 揺れが収まるまでそこに留まる。

## 7 揺れが収まった後の対応

- 余震に警戒し、火災等の二次災害の発生を防ぐ。
- なるべく1人で行動しない。
- 王子キャンパスは津波への対応が必要となる。  
⇒「⑧津波からの回避(王子キャンパス)」を参照のこと。

## 教員

「⑩大規模地震発生時の教員の初動について」の「勤務時間内」の項目に従って行動する。

## 教員以外

「⑪大規模地震発生時の教員以外の初動について」の「勤務時間内」の項目に従って行動する。

## 8 津波からの回避(王子キャンパス)

- 「津波注意報」が発令された場合は、その内容やその後の情報に注意を払うとともに、避難経路や

避難場所を確認する。

- 「津波警報」、「大津波警報」が発令された場合は、直ちに附属中学校E棟屋上(標高5m+校舎11.6m)又は附属小学校北校舎屋上(標高5m+校舎11m)に避難する。

## 9 帰宅の判断

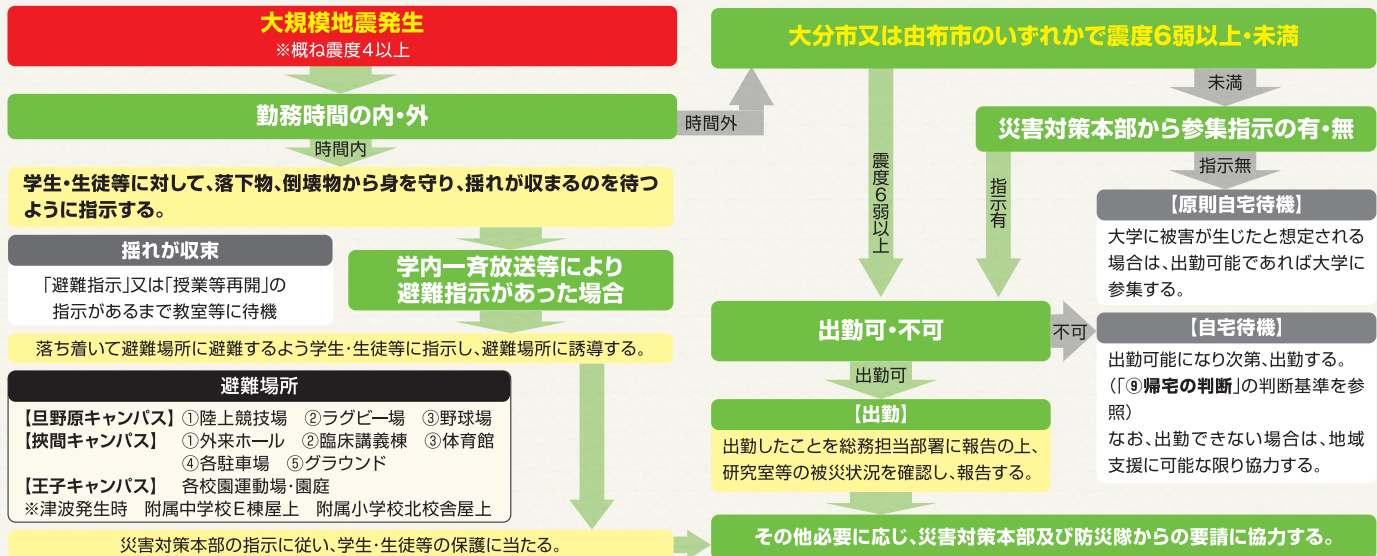
- 災害対策本部から指示があるまでは、必要に応じて災害対策本部及び防災隊の業務に協力する。
- 災害対策本部から帰宅の指示があった場合は、次のことを参考に、帰宅するか否かを判断する。
  - ・交通機関の運行状況、停電の有無、その他周辺地域の災害状況等

## 徒歩で帰宅できる目安

- 10Km未満……………帰宅可能
- 10Km以上20Km未満……………道路等の状況次第
- 20Km以上……………帰宅困難

- ・日没後は危険が伴うため、時刻を考慮して判断する。
- ・安全が確保できない場合は無理に帰宅しない。

## 10 大規模地震発生時の教員の初動について



## 11 大規模地震発生時の教員以外の初動について

